

SEANETソウルの余韻

JE3BEQ 宮本 誠一

SEANETはSouth East Asia Amateur Networkの略で、毎日1200UTC (日本時間の21時)から14.320Mhzでロールコールを行っている形式ばらないグループのことである。1971年の12月末から翌月の初めにかけてマレーシアのパナン島でアイボールQSOしたのがSEANETコンベンションの始まりで、その後一回流れただけで毎年開催されている。

ソウルで開催された今年のSEANETコンベンションは、私が最初に参加した2003年のジョホール・バールコンベンションにその契機がある。東南アジアのネットであるSEANETはその時既に域外のインド(マドラス (現在のチェンナイ))とオーストラリア(ダーウィンとパース)で開催されており、ヨーロッパや北・中アメリカ大陸からの参加もありまさにワールドワイドのコンベンションであった。

ジョホール・バールに着く前夜のシンガポールで、今回のソウル開催の指揮を執ったChae (HL2KDW)さんに初めて会った。初参加の私にとっては背景が全く分からなかったが、同行のクラブの人達が、もしジョホール・バールのコンベンションで「そろそろ日本で開催したらどうか」の声が出た時にどう対処するかを話し合っていたことを思い出す。これまで毎年日本から大勢参加し楽しませてもらっているのも、もしその声が掛かって日本の何所かが開催の意思を示してくれば我々は全面的にそれに協力しよう、しかしそうでなければ大阪開催に手を挙げて応えようと言うのがその結論であった。このときChaeさんは翌年の2004年に主催するInternational YL Meeting 2004 Seoulの宣伝を目的としての参加であったが、SEANETコンベンションが日本で実現したらソウルでもやりたいとの願望を持っていることも知った。事実ジョホール・バールで日本開催を望む声強いことを身をもって知り、翌年のバンコックコンベンション2004では開催地として立候補するに至り全会一致で決定された。インドで2回目となるバンガロールコンベンション2005のあと、極東アジアで最初となる大阪コンベンションが実現したことは御承知の通りである。Chaeさんは大阪開催に協力してくれ、我々は今回のソウル開催に心からの応援をしてそれに伝えることができた。来年は引き続き極東アジアの上海開催が決まっており、準備の熱気も既に伝わってきている。また再来年は再び東南アジアに戻ってブルネイの12年ぶりの開催が承認されている。



写真1 SEANETジョホール・バールで挨拶を交わすDr.KNさん、Chaeさん、Kang (HL2DBF)さん

写真2 SEANETジョホール・バールで韓国を代表して挨拶とYLミーティングの宣伝をするChaeさん



SEANETコンベンションは今回が37回目になるがこのように長く続く理由は、毎日のネット交信、毎年のコンテストとコンベンションによる継続的なメンバー同士の交流と親睦、新しいメンバーに対する心からの歓迎、組織のバックアップの有無や大小などに支配されることなく、あくまでも積極的な個人のリーダーシップによる情熱的な取り組みに因っていると考える。私はこの三つをSEANETの精神と勝手に呼んできた。事実SEANETには自分で積極的に買って出た「要望されたりする役割はあるものの、組織や役職は無く誰から指示されるわけでも無い。個人の積極性を原点に自然な形で運営され、それがメンバー全体の気持ちに良く調和している。仮に何か課題が発生した場合は、アクティブなメンバー同士で処理し解決していくであろう」SEANETの魅力は此処に有ると思う。

最後に皆さんにお伝えしたい嬉しいことがあった。最終日の前夜、Dr.KN (ケン) (9M2KN)、Ponwat (HS1XIM)、私の3人がホテルの部屋で、明日のセミナーのことなどを話し合っていた。その時Dr.KNがサイレントキーで過去の紹介洩れがなかったかと聞いてきた。私は精々7年前からの参加でSEANETの歴史を刻んできたオールドタイマーの方々を知っている訳ではないが、その後すぐ彼の意図するところがあった。それは今回三好京子 (JR3MVF)さんが参加しているので、今は亡き三好二郎 (JA3UB)さんを改めてもう一度偲ぶ方法を考えていたのである。即ちSEANET2007ランパン参加記で報告したように、彼の計らいで既に心のごもった哀悼が表されていたので、今回彼はもう一度そのきっかけを掴もうとしていたのであった。翌日セミナーの冒頭で、彼は真っ先に三好二郎さんへの哀悼の言葉とSEANET大阪を成功させたことを紹介して人々の記憶を呼び戻すとともに、日本で初めてそして極東アジアへの広がりの先鞭をつけた功績を丁寧に説明してくれ、皆はそれに聴き入って黙祷した。何時もながらのDr.KNの心遣いを嬉しく思った次第である。



写真3 SEANET大阪でソウル開催の意志を表明し拍手を受けるChaeさん

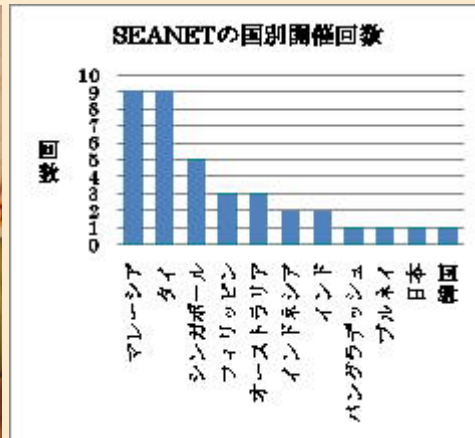


写真5 次期開催都市「上海」へバナーを引き継ぎ大役を終えるChaeさん



写真4 念願叶ってSEANETソウル開催の挨拶を述べるChaeさん

今年は例年より一日長い日程であったがそれもあっという間に過ぎ去り、来年の上海での再会を夢みて皆幸せな気持ちでソウルを後にしたことは言うまでもない。
Chaeさん、お世話をして頂いた皆さん有難うございました。お疲れ様でした。
(de JE3BEQ)



JI3ZAG

大阪国際交流センター・ラジオクラブ

Osaka International House Radio Club